

【活動日誌149】武蔵野ふるさと歴史館との打ち合わせ

当館では社会連携活動の一環として武蔵野ふるさと歴史館と連携した教育普及活動を行っています。今年度も歴史館と共催でワークショップを実施することが決まっております。先日は具体的な内容を検討するための打ち合わせを行いました。

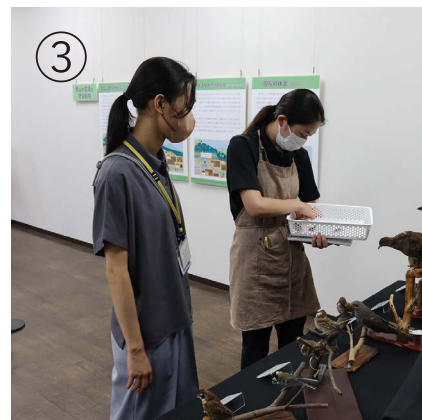
昨年度は「野鳥の羽」をテーマとし、野鳥の羽の採集・洗浄・観察を行いました。今年は野鳥の羽を素材としたグッズづくりをしてみようということになりました。イベントは今年の11月中旬に開催する予定です。詳細が決まりましたら武蔵野ふるさと歴史館や当館のwebサイト等で情報を発信しますので、興味のある方はチェックしてください。

(学芸員 石井)

■【活動報告】「武蔵野動物観察隊3 どこの羽？どんな羽？」に講師として参加しました

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20221201-01.html/>

昨年度のワークショップの様子はこちらで紹介しています



- ① 事務室での打ち合わせの様子
- ② イベントで作るグッズのサンプルを確認する様子
- ③ 野鳥の剥製を見学する様子

2023年9月7日の記事

【お知らせ】オープンキャンパスの活動報告を掲載しました

大学公式サイト内の博物館ページに8月のオープンキャンパスの活動報告を掲載しました。当日の様子を写真つきで紹介しています。ぜひご覧ください。

■【活動報告】オープンキャンパスに合わせて博物館を開館しました

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20230901-02.html/>

■【活動日誌147】オープンキャンパスに合わせて博物館を開館しました

<https://tinyurl.com/25r4yc58>

当日の様子速報はこちらからご覧いただけます

【活動日誌150】食品科学科の取材に対応しました

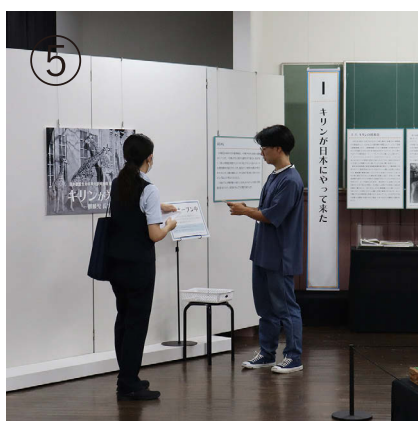
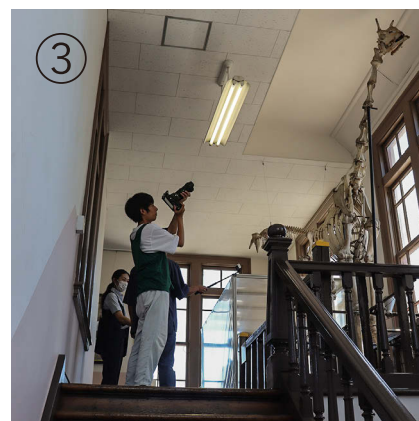
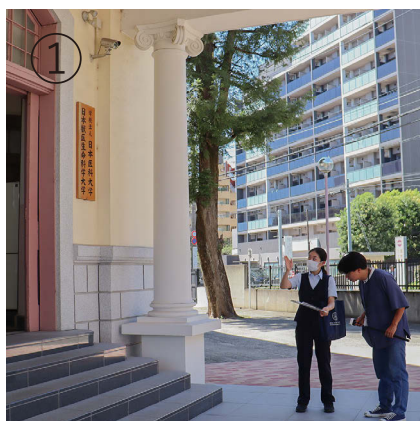
本学の応用生命化学部食品科学科では、Instagramを活用した情報発信をしています。Instagramでの新たな企画「学内ツアー」で博物館を紹介していただけることになり、先日は博物館スタッフが取材に対応しました。

博物館の紹介記事は11月ごろ掲載される予定です。Instagramのアカウントがある方は是非チェックしてください！

■nvl.u.food.science

<https://www.instagram.com/nvl.u.food.science/>

食品科学科の公式Instagramはこちらから見るができます



- ① 一号棟の歴史や見どころを紹介しました
- ② 階段1段目の「人研ぎ(じんとぎ)」も一号棟の見どころの一つです
- ③ キリンの「長次郎」の来歴についても紹介しました
- ④ 自然系展示室の取材の様子
- ⑤ 企画展のプレオープンについて解説する様子

【活動日誌151】剥製のレントゲン撮影

博物館の展示室がある一号棟には、博物館では管理していない大学への寄贈品として、絵画や剥製、骨格標本が置かれています。最近それらのうち、一号棟の南側階段の上の踊り場部分に置かれていた剥製類と骨格標本を博物館で管理することとなりました。

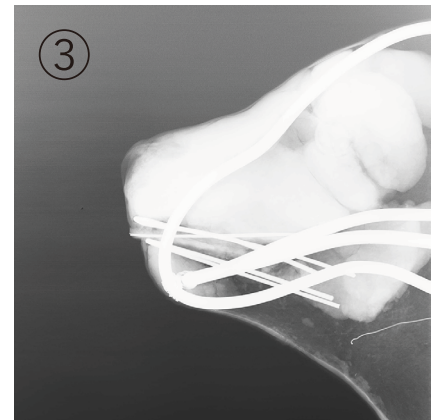
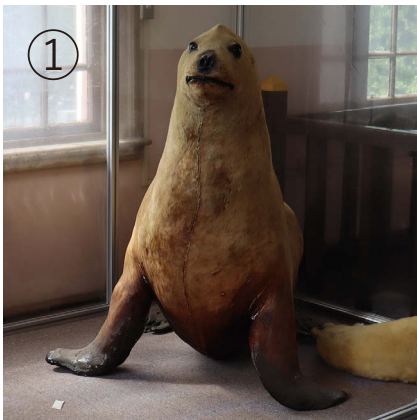
その中には、3体の海獣類の剥製が含まれています。これらの海獣類については、大学に寄贈された際に種名や寄贈元が収集した経緯などの情報がなく、一体なんの種類なのかもわかっていませんでした。

今回、中でも大型の海獣類の剥製について、種の判別のために頭部のレントゲン写真を撮影することになりました。レントゲン撮影には本学獣医学部獣医学科産業動物臨床学研究室の味戸忠春教授と三浦亮太郎准教授にご協力いただきました。

頭部を撮影した結果、残念ながらこの剥製には頭蓋骨がなく、何らかの人工物と針金で頭の形を模していることがわかりました。

今回は頭部の撮影を主目的としていましたが、次は骨を用いたDNA解析による種判別を行うために、改めて後脚と前脚を中心にレントゲン撮影を行って、剥製に残された骨がないかの確認を行う予定です。

(スタッフ 廣瀬)



- ① 大型の海獣類の剥製(全景)
- ② 頭部のレントゲン撮影を行う様子。
- ③ 撮影したレントゲン画像。針金と何らかの人工物が頭の形を作っていることがわかる。

【活動日誌152】解剖スケッチの受け渡し

当館では日本高等獣医学校時代に学生により描かれた解剖スケッチを所蔵しています。7月29日の活動日誌では、解剖スケッチのクリーニングとデジタル化に向けた打ち合わせの様子を紹介しましたが、その後クリーニングの実施のためスケッチの受け渡し作業を行いました。

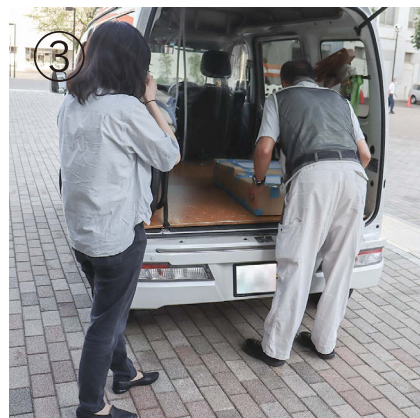
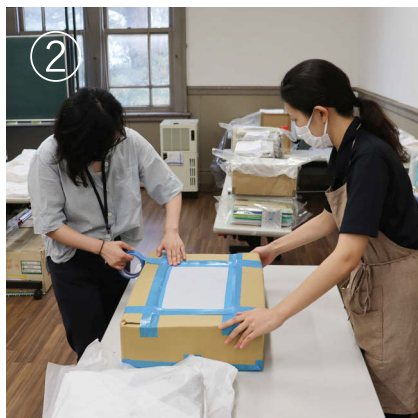
今回クリーニングの対象となったのは、解剖図をまとめたスケッチブック12冊です。これらの資料は殺虫処理とドライクリーニングを実施した後、1点ずつカメラで撮影し、デジタルデータとして記録を残す予定です。

(学芸員 石井)

【活動日誌143】解剖図スケッチブックのクリーニングとデジタル化を進めます

<https://tinyurl.com/3k7b65xs>

打ち合わせの様子はこちらの記事で紹介しています



- ① 資料を梱包材でくるみ、箱に収める様子
- ② 資料の大きさに合うよう、その場で箱の大きさを調整していただきました
- ③ 梱包した箱を運んでもらう車に積み込んだ様子 ※車のナンバーは見えないように処理しています

【活動日誌153】剥製のレントゲン再撮影

先週も紹介させていただきました、一号棟に置かれている謎の大型の海獣類の剥製についての続報です。今回は、頭部のレントゲン撮影を行った結果、頭蓋骨が残されていなかったことをご報告させていただきました。

この海獣の剥製自体は、サイズがかなり大きく、外見的特徴からトドかアシカの雄ではないかと考えられています。ただしトドとアシカの判別点として重要となる耳は耳介が喪失しているため決め手とならず、頭蓋骨が残されていなかったため、最終的にはDNA解析を行わなければ種の判別が難しいことがわかりました。種の判別を行うためのDNA解析には骨組織が必要となるため、今回は剥製にするときに骨が比較的残されやすい、前脚・後脚のレントゲン撮影を行うこととなりました。

撮影の結果、脚も頭部と同様に何らかの人工物と針金で形を模していましたが、後脚の中に骨が残されていることがわかりました。後脚では剥製の表面に出ている爪を残すために骨が残されていたものと思われる。

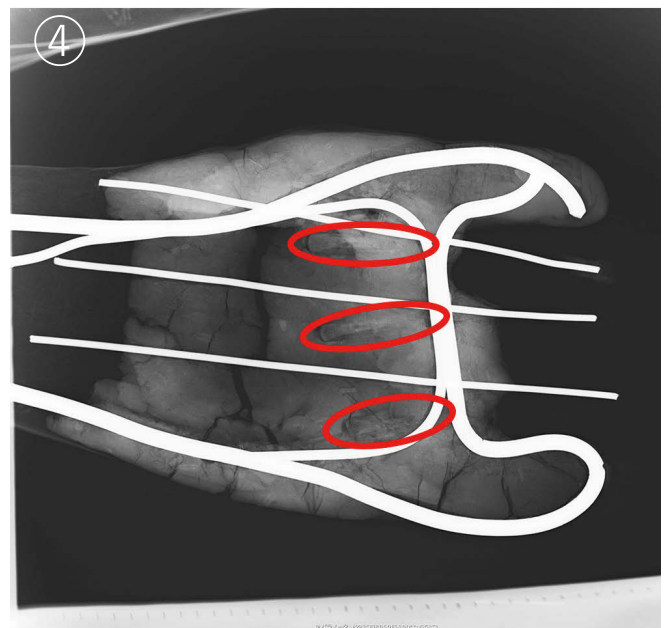
剥製に骨が残されていることが分かったため、DNA解析を行える可能性が高くなりました。今後もまたこの剥製については調査を進めていく予定です。

(スタッフ 廣瀬)

【活動日誌151】剥製のレントゲン撮影

<https://tinyurl.com/ye29vru7>

前回行った、頭部のレントゲン撮影についてこちらの記事で紹介しています



- ① 左前脚を撮影している様子。カセットを下面に置いて上から撮影していただきました。
- ② 撮影した画像をPCで確認して骨があるかを先生方に確認していただきました。その結果、両後脚の第2指・第3指・第4指の中節骨と末節骨が確認されました。
- ③ 剥製の右後脚を上から見た様子。第2指・第3指・第4指の爪が剥製の表面から出ています。
- ④ 右後脚のレントゲン撮影画像。赤丸を付けた部分に骨が確認されました。

【お知らせ】オープンキャンパス開催に伴う特別開館について

2023年10月1日(日)に本学のオープンキャンパスが開催されます。オープンキャンパスでは、高校の1～3年生・既卒生・教諭、および中学生等の皆様を対象に、各学科の説明や体験講義、入試説明や個別相談などを実施します。

通常日曜日は開館日ではありませんが、当館もオープンキャンパスに合わせて特別開館いたします。また、現在日本獣医生命科学大学博物館第1回企画展「キリンが来た道～麒麟児 長次郎の歩み～」をプレオープンしています。博物館の見学はオープンキャンパスに参加された方のみを対象とするため、ご興味のある方はぜひ、オープンキャンパスにご参加の上、博物館まで足をお運びください。ご来館をお待ちしております。

なお、オープンキャンパスでは当日の来場人数を把握するため事前申込制を導入していますが、オープンキャンパスの総合受付にて当日の申込みも可能です(スマートフォン等から必要事項をご入力いただきますので、事前にお申込みいただくと入場がスムーズです)。詳細は本学公式受験生サイト「ニチジュウNAVI」を御覧ください。

〈オープンキャンパス共通イベント 附属博物館自由見学〉

受付場所…一号棟1階

実施場所…附属博物館(一号棟)

開館時間…10:00～15:00

※オープンキャンパスに参加された方のみ見学が可能です

■オープンキャンパス(全学科) 2023.10.1(日)

<https://www.nvlu.ac.jp/nichijyunavi/event2023/1001/index.html>

イベントの詳細や申込みについてはこちらのページをご参照ください

【活動日誌154】剥製をご寄贈いただくことになりました

先日、当館のお問い合わせフォームから、ご親族がお持ちの剥製の寄贈についてご相談をいただきました。猛禽類やウミガメ、タヌキなどの剥製を寄贈したいというお話でしたので、写真を送っていただいた上で電話で簡単なヒアリングを行い、実際に剥製をご寄贈いただく方向でお話を進めていくこととなりました。

今回は一度に10点以上の剥製についてご寄贈を希望されていまして、剥製の状態や大きさの確認、運ぶときの準備などのために、ヒアリングを兼ねて調査に行かせていただくこととなりました。事前には12点の剥製の情報をいただいていたのですが、他にも保管されていたものがあり、全体で哺乳類5点、鳥類5点、爬虫類6点、併せて16点について記録を行いました。

今後調査結果を踏まえて、必要なものについては環境省への届け出の手続き等を行った上で、博物館への寄贈手続きを進めていく予定です。また続報をお伝えしていきたいと思えます。

(スタッフ 廣瀬)

【活動日誌16】ヤマドリの剥製を寄贈していただきました

<https://tinyurl.com/sck29b67>

2020年度にヤマドリの剥製を寄贈していただいた時の様子をこちらの記事で紹介しています



- ① 寄贈予定の剥製類は、移動のために簡易的な梱包をされていたので、まず1点ずつ梱包を外していきました。
- ② 資料に番号を付けて、どの資料がどの番号かわかるように写真を撮影しました。
- ③ 撮影後、サイズを計測してから、剥製の状態について詳しく確認していきました。
- ④ 今回調査を行った剥製類の一部です。